

第7回 市民会館の整備検討懇談会 質疑応答及び意見交換議事録

日時：令和2年11月16日（月）午前10時～正午

会場：名古屋市音楽プラザ 大リハーサル室

1 進行

- ・ 開会
- ・ 令和2年度第1回市政アンケート調査結果及び名古屋版アーツカウンシルの検討状況について
- ・ 議事
- ・ 新たな劇場の基本構想（素案）
- ・ その他
- ・ 閉会

2 「令和2年度第1回市政アンケート調査結果及び名古屋版アーツカウンシルの検討状況について」（配布資料の説明）

3 「新たな劇場の基本構想（素案）」質疑応答及び意見交換（配布資料の説明終了後）

黒田座長

ご説明ありがとうございました。委員の方からご意見伺いたいと思います。どなたからでもけっこうです。オンライン参加の眞野委員、永井委員もご発言がございましたらご遠慮なく入っていただければと思います。今まで議論されたものを今回まとめていただいたということですが、まだ基本構想の段階ですので、パブリックコメントをいただいた後に、それをスタートラインとして来年度からもう一度詳細な実施に向けての計画を市の方でスタートしていくことになるかと思っています。まず、検討しておくべき課題について一通り提示されていると思いますが、何か漏れ等、新しい劇場の整備にあたって必要な点はございますでしょうか。

林委員

本編の47ページ、48ページあたりについて、地域と連携する範囲を定めておくとういことかと思っています。ご近所や圏域全体、国内、国外とか、色々と範囲がございいますから、それらを決めておく、可能であれば網羅できているといいかなと思います。圏域の拠点施設ですから、市域をまたぐような活動ももしかしたら求められているかもしれません。今、JAPAN LIVE YELL project @AICHIの一環として、名古屋・尾張プロジェクトというものを担当しています。名古屋市内にこだわらず、広域的な取り組みが担保されるような文言があるとよいかなと思います。

また、全体的に、「需要および課題」とされていますが、どうしても需要は顕在的な需要が中心になってしまい、潜在的な需要はなかなか書きにくいかなと思います。ですので、33ページや34ページ辺りの、施設のミッションや位置づけ、役割が重要だと思います。これが無ければ、なかなか予算も気力も続かないように思います。お客さんの要望を聞くことは重要ですが、要望を聞くだけでは中タイノーションは起きません。有名な話で、フォードが顧客の要望を聞いていた

ら、早い馬車を作ることしかなかった、しかしフォードは車を作りました。そのためにも第3ホールの役割がものすごく重要だと思います。具体的なイメージはこれからだと思いますが、自主事業を中心とした利用も検討してはどうかと思います。

太下委員

1点目としては、林委員が仰ったように、第3ホールが重要だと思います。多分ここが、新しい劇場の特徴となると思います。創造活動事業が非常に重要な事業になるだろうと思います。そう考えると、この創造活動事業が重要であることがさらに、役割に明確に書かれていないので、この役割の中にも創造活動事業の位置づけが書かれているよいと思います。素案本編の34ページ辺りになります。更に、その上の部分の現状の課題と本市のめざす方向性というのがかかれています、そこにも創造活動事業についてのイントロダクションのようなテキストが記載されていると良いと思います。これは、素案の本編の32ページ辺りになります。

2点目として、概要資料2枚目の運営組織の考え方について、素案本編40ページ以降に相当する部分についてです。概要版では非常にさらりと書かれていますが、新しい劇場にとって、どういう事業になるのか、どういう施設になるのか、と同等以上に重要な内容です。素案40ページ以降では、より具体的な運営主体の比較、直営と指定管理者の比較がされています。一般論としての整理はあってもいいですが、新しい劇場を作ること考えると、直営か指定管理者かの二者択一ではないように思います。仮に、指定管理者業務とした場合、すぐ壁にぶつかると思います。指定管理料をいくらにすればよいのかとなると、誰も管理運営のしたことのないようなホールですから、指定管理料自体誰にも分からないでしょう。そうすると、多大な税金を支払ってしまう可能性があります。逆に、過小に見積もって、業者が破綻して撤退するという可能性もあります。適正な料金が誰にも分からないので、おそらく、当初の運営状態が落ち着くまでは直営というのがリーズナブルな方法になるかと思います。直営といっても、市が直接専門人材を雇用するというのは現実的ではないので、直営という形をとりながら委託という形が一番落ち着くと考えられます。そう考えると、直営の中に専門人材の確保が必要というテキストがありますが、これは直営の課題ではなくて、どんな方式をとったときも共通の課題ということになるので、そういう落としどころをにらんだ形で資料を整理していただいた方がよいと思うと同時に、運営組織や運営の在り方についても具体的に考えていった方がいいのかなと感じました。

また、先ほどご報告のあった名古屋版アーツカウンシルについてです。アーツカウンシルについては別の委員会があるのでこのメインの議題でないことは承知しております。しかし、現状の資料を拝見したところ極めて大きな問題が2点ありますので指摘させていただきます。

1点目は、この委員会とも深く関係しますが、この劇場構想と全くリンクしていないという点です。今後リンクさせるご予定があるのかもしれませんが、そういうレベルの問題ではないような気がします。今後、この新しい劇場の費用は積算されるのですが、どう考えても100億円を超える規模の事業となるでしょう。基本的に、これは名古屋市の皆さんの税金が使われます。そう考えると、今後の名古屋市の政策全般における相当重要度の高い事業の位置づけになるでしょう。そういった位置づけである新しい劇場と、新たな文化芸術推進体制の構築というのがリンクしていないというのは重大な欠陥だと思います。

2点目は、現状議論いただいている内容がこのままだと実質的に機能しないだろうと思われる

ことです。例えば、資料２の９ページ目をご覧くださいと、常勤スタッフを雇用すると書かれています。「(仮称)クリエイティブ・リンク・ナゴヤ」という組織を事業者登録することにより各種社会保障なども整備すると記載されています。ただ、その前の段階を読むと、この組織はあくまでも実行委員会形式と書かれており、すなわち法人格がありません。法人格がない組織も契約雇用はできますが、その場合は通常、実行委員会が事務局長か代表者の個人の責任のもと契約するということになります。要するに、実質的には事務局長になられる市役所の職員が、個人の責任で人を雇用するということで、非常に怖い状況となり、現実的ではないです。また、そういう形で人を雇用しても優秀な人材は集まりません。やはり、優秀な人材を集めるには法人格のある組織が必要になります。それは非営利組織でも何でもいいですが、そこがきちんと議論されておらず、法律上可能だというレベルの綱渡りの状況での議論が前提となっているように見受けられます。実質的に実現されないだろうというペーパー上の議論でしかないだろうと思います。これも、名古屋市の皆さんの税金をかけて議論されている点なので、こういう状態で議論が進むというのは、問題ではないかなと思います。とはいえ、法人格がある組織を簡単に作れる状況には今はありません。名古屋市だけではなく、全国の自治体が今行政改革をしている中で、新たな外郭団体を作るというのはおそらく無理です。そう考えると、既存の団体に新たなこういった部門を作るとするのが現実的な方向性でしょう。実際、日本国内で様々な地域版アーツカウンシルができてきましたが、ほとんどの場合、元々ある文化振興財団がそういった組織を立ち上げています。劇場の整備と絡めて、一つの解決策を申し上げますと、先ほど申し上げたように、当初は直営かつ委託という形がイメージされますが、その委託先業務の中に、アーツカウンシル業務を含めるとというのが一つの方法としてはあり得るのではないかと思います。

我々の検討議題ではありませんが、非常に劇場の整備も絡みますので、ご意見申し上げました。

黒田座長

ありがとうございました。アーツカウンシルについては本会議の議題ではありませんが、おそらく来年度以降立ち上げに入られる予定です。また、市民会館が更新されるということで、名古屋市全般、小劇場も含めて、全体的な調整や運営、評価のようなところで新設することになりますので、財団の新設は難しいのは確かです。ご検討いただければと思います。そのほか、委員の方でございますでしょうか。では工藤委員お願いします。

工藤委員

第３ホールについては、この案が出た後、様々な舞台関係者等と話しています。現時点では具体的な中身が見えてきませんが、最初は自主事業によってこのホールの可能性を提示していくことでスタートしていくことが必要だと思います。そうやっていく中で、今回、積極的な共催という言葉がありましたように、そういう形でまず自主事業をやりながらの場にしていければと思っています。一つ積極的な話としては、800席くらいの演劇に適した劇場ができることは大きな前進だと思っています。ただ、実際に平土間という形になることによって、どのようなものになるかはイメージができません。林委員がおっしゃたよう、可能性というか、自主事業や地域との関係も含めて、新しい劇場の目玉として考えられていけばよいと感じております。

眞野委員

先ほど太下委員が触れられたように、アーツカウンシルの議論がされるのだらうと思ってこの場に臨みました。アーツカウンシルが新しく作られる劇場の内部組織として位置付けられる可能性があるという話を太下委員がされましたが、私も新しい形で名古屋の観光や福祉、教育や色々なものにまたがるものの拠点に新しい劇場がなるのであれば、アーツカウンシルの役割は非常に大きい役割として考えられるべきだと思うので、今後の課題としては、意識して検討されるべきだらうと思います。

さらに、太下委員の仰った、アーツカウンシルにこそ優秀な人材を集めなければいけないという話ですが、非常に難しいことではありますが、行政的な発想と民間的な発想を併せ持ったような人材をアーツカウンシルに大勢集めなければなりません。これはとても難しい話ですが、名古屋で本当に最初に試みられるのであれば、これは非常に先進的な事例として、挑戦することがよいと思いました。

永井委員

眞野委員や太下委員、林委員がおっしゃった中で、アーツカウンシルについてご発言があったのですが、劇場にこそ専門家がきちんといて、アーツカウンシルの専門家とスキルをシェアし、相乗するような人材が両方にいるというくらい必要なのではないかと思います。劇場に誰もおらず、アーツカウンシルだけ充実させることはしないのではないかと思います。アーツカウンシルを作って、それを充実させるには、劇場にプロデューサー等がいてすそ野を広げる。そのような志向性を持ち合わせた人材が必ず必要だと思います。

眞野委員

政府の施策として、アーツカウンシルが望ましいといわれております。所謂アートに関連するNPOなどの、福祉・教育・子ども・高齢者などの見えてこない活動が沢山あります。そのようなものに劇場全体が関わるとなると、ものすごい人数が必要になります。そういったものとの新しい劇場の関わり方をアーツカウンシルで一度整理した上で、包摂するような画ができないかと思いました。劇場にはそれらに最適化した、圧倒的に優秀な人が必要です。

永井委員

名古屋市からプロデューサー的な位置づけのホールをつくらうとしているため、ソフトウェアとして強力かつ優秀な人材が必要だと考えています。そのように配置されれば、アーツカウンシルについても拮抗するような中間支援組織としてうまく機能すると感じております。

黒田座長

この委員会はアーツカウンシルについての会議ではございませんが、市の方でも、2本立てでそれぞれ優秀な人材を確保するための方策を検討していただいていると思いますが、アーツカウンシルは市民会館だけではなく、市にある他の様々な劇場・ホールとトータルで考慮されるという組織です。市民会館も相当大規模な施設になりますので、市民会館独自の企画や、優秀な人材を直接確保することが必要だと思います。一言だけ述べさせて頂くと、アーツカウンシルが一年

契約というのはさすがにいい人材の確保は難しいと思いますので、これはそちらで議論していただければと思います。他に何かございますでしょうか。

遠藤委員

第3ホールに関して、皆さんの意見を伺い、どういったものが良いかと考えておりました。良い人材がいても、ホールが対応できないと結局実現できないのかなということを思いました。演劇の人など、そういった人が、その最高水準の表現ができるような建物としておくことが、そういった人材が来たときに対応できるのではと思いました。第3ホールについて、椅子席で800席、スタンディングでもできるという、Zepp Nagoyaというホールとほとんど同じです。袖もなければ奥行もない中で、音楽の公演はできても、そこで芝居をやろうという話にはなかなかありません。ガワがないと、いい人材が来ても、できないということになってしまうかもしれません。そういったことも含めて、検討しておいた方が後々使いやすいホールになると思いました。

また、最初のアンケートで思っていたのですが、「文化芸術」という言葉について、文化芸術には文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊で62%とありますが、こういうときだけ全て一緒にしてしまっていますが、この中の割り振りはどうなっているのか、一緒にしてよいのかという点が気になりました。

高北委員

ひとつだけ気になったのが、市政アンケートの4ページについてです。緑色の「どちらかといえば向上すると思う」という回答が36.7%ございますが、この点がいかに名古屋という印象です。赤色の「向上すると思う」という回答が非常に少ないです。緑色部分は分かっていない人です。いわゆる文化芸術を行う際に、この票が多いためになんとなくの安心感を感じるかもしれませんが、安心できません。この緑色の回答者は反対に回る可能性もあります。赤色の回答をする人をどのように増やしていくべきかという点を意識しなければならないと思います。我々は強く危機感をもってやっていかなければならないのではないかと思います。また、市民会館ができて3年、5年後に、ここが変わったと強く言ってもらえるような工夫ができたらと思います。

黒田座長

ありがとうございました。アンケートの7ページに、「公演の情報を見聞きしたことがないから」という理由がとても多いです。仕事などが忙しくというのはよく分かりますし、情報発信の点も整理されていきました。個人的には、一度利用した団体があるとプロモーターからハガキなどの連絡が来ますが、新聞の広告等だけでは、どこでいつ何がという情報がなかなか手に入りづらいところがございます。市民会館の中に、喫茶店などができて、そこに来たついでにチラシやポスターを置いて情報収集できるようにすると、非常に大きい効果があるのではないかと思います。この分野に限らず、情報発信は難しいということかと思えます。

西川委員

アンケートの調査対象について、回答数とどのように集まったのかがよく分からなかったのですが、対象年齢等は分かりますか。

事務局

こちらのアンケートについては、18 歳以上、無作為抽出で 2000 人の方に依頼し、有効回答数は 1000 件でした。名古屋市は市政アンケートを毎年数回行っております。1000 件の有効回答を得られるというのは統計学的には有効であるということで、施策の参考にさせていただいております。年齢の比率は、人口比に合わせて抽出しております。手法としては、郵送形式としております。

西川委員

わかりました。人口分布で言いますと、現在は 4 割以上がシニアの方かと思います。情報を、チラシ・ポスター・新聞・テレビ・ラジオで収集しているというのが昭和のままですが、こちらの基本構想では IT を無視することはできないので、非常に色々なところでジレンマを感じます。

10 代の子ですと、雑誌も読まず、Instagram や tiktok で情報を収集しており、情報に関しては世代差があります。それでいて、全ての世代を満足させようという市民会館づくりというのは非常に難しいなと基本構想を見ながら思っておりました。また、アンケートでやってしまうと顕在的な需要しか出てこないという点で、ニーズに応えただけの施設では、話題にもならず、なんとなくつまらない場所にしかないかもしれません。それを解決する方法は難しいでしょうが、基本構想では、沢山の可能性を語るということで良いとは思いますが、アンケート一つとってみても世代別、都市別、ライフスタイル等で答えもまったく違うでしょうから、最大公約数でものをやるというのは難しいと思います。現段階では色々な可能性を出していき、次の委員会で精査するのだと思いますが、この委員会でもある程度最も有効な方向性が出てくれれば良いと思います。個人的には、全部に満足する施設ではなく、何かに特化した施設となるのが良いのではないかと思います。

林委員

先ほど、優秀な人材の配置の話がたくさん出てきました。実際、劇場の職員というのは、公募してもなかなか集まりません。みなし残業や年収の面で、なかなか社会的地位としても高くないということで、専門人材は配置というより育てる必要があると思います。東京とは事情が違うため、地元でじっくり専門人材を育てる必要があると思います。完成が 2027 年ということで計画されていますが、そうなると、30 代後半～40 代前半の人材を育てることが重要だと思います。

また、PFI やコンセッションなど今後検討されると思いますが、コロナ等の感染症と共存していく経済や社会を考えると、今までの資金循環の考え方では中々立ち行かなくなる可能性があります。名古屋市がどれくらいコミットしていくかは、事前に整理しておかないと、長期的、持続的に活動していくのは難しいと思います。

先ほど委員長がおっしゃった情報発信の難しさについて、何力所かに、情報の一元的集約、発信というような文言がございます。こだわりすぎるとパンクしてしまうので、検索エンジンに即した現代に見合った手法を検討していくと良いと思います。また、情報を単に伝達するのではなく、編集した方が発信力は高まると思います。今後検討していただければと思います。

松岡委員

使う側としては、どのホールも使いやすいホールであるといいと思います。中身がしっかりしていないといざ使おうとすると、あれもできない、これもできないとなってしまいます。各ホール、機能がしっかりと用途に使いやすいホールとしていただきたいと思います。

また、アンケートをみて、一度も行ったことが無いというのが 50%というのに愕然としました。みんなが、オープンに入りやすいものになりたいです。常に何かやっている、という状況が見られるようにすると良いと思います。そういうホールになっていけば、色々な人材がそこから集まると思います。すぐに優秀な人材が揃うことはあり得ないので、時間をかけてやっていかなければなりません。一年契約というのは絶対無理だと思います。最低でも 10 年だと思います。すぐは難しいでしょうが、10 年経って良いホールになったね、と言われるようなホールとなってほしいと思います。

山本委員

興行するものとしてはわくわく感しかありません。特に第 3 ホールについては、コロナのリモートなどで、どこにいても、東京や大阪に行かなくてもチャンスが広がっていると感じています。地方でやっている芸人が、東京や大阪に一度出て、そのあと地元に戻ることがありますが、同じように小劇場演劇の劇団もそういうことがあると聞いています。第 3 ホールが、そういうことがなくなっても全国発信ができる可能性がある場所になっていけばと思います。そういったところで、運営方法を考えていただきたいと思います。

また、施設のあり方、開かれた劇場、についてですが、地方都市を巡業していて、各地に立派な劇場はありますが、郊外にあったり敷居が高かったり入りづらくなっています。この場所は、利便性を活かして、誰でも入れる、何もなくても人が集まり、コミュニケーションが始まるような場所としていただければ、文化や大衆芸能が育つと思います。それが最大限に実現できる立地条件だと思いますので、そういった劇場を作っていっていただければと思います。

山元委員

私も上演団体をやっておりますので、ハード面に目が行きます。ほとんどの市民が、新しい劇場について、完成して実際に行って初めて体験します。資料だけ見るとすごい施設だと思いますが、実際に作るのは大変だと思います。長い目で見て、市民ができるだけ多く足を運ぶような場所になればいいと思います。どこのホールであっても、内容的にどのようなものでも上演可能であったり、十分な設備があるようなそういうものが望ましいと思っております。県のコンサートホールとのすみ分けは難しいと思いますが、かつ、世界中のアーティストがそこで演奏したいという場所になればいいと思います。また、それを知らしめていくのは演奏団体であると思っておりますので、新しい劇場でも尽力したいと考えております。

島崎委員

金山まちづくりは巨大プロジェクトとなっています。基本理念にあるように、文化芸術でとてつもない人を集めるということでございます。市民会館は市の文化芸術の中心施設になります。第 1・第 2 のホールともに利用が 100%、第 3 のホールも実験的・創造的事業も含めて 100%に

なるでしょう。まちへの波及効果から商業が動き、金山のまちの活性化がみえます。しかし市内には、他にも私たちが管理している 23 の施設がございますので、それらとの有機的な連携も大事になってまいりますし、少し議論になりましたアーツカウンスルとの関係も出てきます。作る人、見る人、参加する人、プロデュースする人、皆さんがハッピーになるために、こうしたことをなるべく器用にやっていくことが必要だと思っております。私ども事業団がぜひそういったところに関係していけたらと強く思っております。ありがとうございました。

黒田座長

ありがとうございました。私の方から一点だけ、音楽プラザとの使い分けや連携について、予定されているのでしょうか。

事務局

音楽プラザは、音楽などの練習が行われている施設でございます。音楽などの練習に特化した施設ですが、この地区に新たな劇場を整備するにあたって、連携も考えております。構造的な連携についてはこれからの検討ですが、音楽プラザと新たな劇場のある地区として文化芸術の拠点となりますので、運用的に連携していくものと考えております。

蛭川委員

本題ではありませんが、アーツカウンスルについてご意見をいただきました。アーツカウンスルと市民会館は今後並行して検討していくため、分かりづらいことがあるかと思いますが、共通の課題として、組織設計はこれでいいのかという点にご意見をいただいたと考えております。アーツカウンスルの検討にあたって、本日いただいたご意見を踏まえて進めていきたいと考えております。そして、新たな劇場の基本構想（素案）については、今後、基本構想をまとめたのち、来年度に向けて具体化をしていきます。前年度から 2 か年にわたってご議論いただきました。我々としても、コロナの影響がございまして、民間投資マインドの低下が懸念される中で、官民連携事業をどのように進めていくかが課題となっています。今後、ヒアリング等を通じて民間企業との連携をそのように具現化できるかについて精力的に検討してまいりたいと考えています。

黒田座長

ありがとうございました。他に何かありますでしょうか。リモートのお二人いかがでしょうか。

永井委員

確認ですが、市民会館以外に芸術創造センターやアートピアホールのような、創造活動という位置づけの施設がございます。市民会館はそれらに比べて、回遊性や駅の近さという面で立地が良いです。また、毛色も違いますので、鑑賞事業や創造事業プラスアルファの裾野拡大事業ができる位置づけや人材の確保を計画に盛り込んでいただくと良いと思います。

眞野委員

林委員が仰っていたように、人材は作るものです。新しい劇場を 7 年後に開けるのであれば、

いますぐに何らかの人材育成事業を始められないかと思います。1年前にこの指とまれで人を集めなければならないという状況は避けた方が良いでしょう。これだけの規模の施設ですと、雇用形態はどうあれ、200名を超える人間が常時働いている建物群となります。そうすると、人材の問題、それもプロフェッショナルな意識とスキルを持った人材を集めるというのは、その時になって集め始めても難しいでしょう。兵庫県は10年以上前から人材を作り始め、開けるときに人材を用意していました。兵庫県は兵庫舞台芸術という別の組織を作り、開館前から作品を作り、官民との関係を作り、長い時間をかけて準備を進めていました。開館時には、それらの土壌の中から人材を選んで配置しています。また、これからIT活用が必要になると思います。愛知県はそういう意味で優良な企業や大学、NPOも沢山ありますから、連携できればと思います。人材の交流を今から図っていくべきだろうなと思います。

黒田座長

ありがとうございました。貴重な情報をいただきました。将来の人材育成を早く始めるべきだというご意見ですが、技術的に市役所の職員ではうまくいかないでしょう。兵庫県のやり方とかをまた事務局でも調べていただいて、名古屋でも、そういうやり方であれば早めに育成できるということであれば積極的に実施していただければと思います。また、企業、NPO、大学との連携については、中部経済連合会（中経連）や名古屋商工会議所（名商）さんにはまだお話はされていないのでしょうか。

事務局

金山との関係につきましては、中経連や名商とは意見交換の場がございますので、我々の方から話をさせていただいております。今後、経済界とも連携して取り組んでまいりたいと考えております。それだけ大きなプロジェクトであると理解しております。

黒田座長

ありがとうございました。コロナの関係で財界や企業も厳しい状態です。ただ、コロナについては、これまでの世界的な感染症をみても、そういつまでも続くものではないと思います。はっきりいつかはわかりませんが、そのうち収束するだろうと思われます。市民会館のできあがるポストコロナを見つめて、計画を進めていただければと思います。他の委員の方、よろしいでしょうか。それでは、ご意見ご質問が無いようですので事務局にお返しします。

事務局

ありがとうございました。本日も活発なご議論を頂戴致しました。本日のご意見を踏まえまして、基本構想案を作成し、引き続きご意見をいただきたいと思いますと考えております。次回が最終の懇談会となります。3月22日13時より、音楽プラザにて開催する予定です。これをもちまして、第7回市民会館の整備検討懇談会を終了させていただきます。本日は誠に有難うございました。

以上